

この映画には、病の中にあっても
 感じる事が出来る「幸福の本体」
 が描かれている。

日野原 重明 聖路加国際病院理事長



「ホスピスケアの原点を描いた映画。」

この映画は我々の思いを遙かに超えた形で
 「いのち」を表現している。
 いま混迷した時代を生きる多くの人々にとって、
 希望の灯火とならんことを切に願いつつ、
 今は天国に住まう患者さんの祈りを添えて、世に送り出そう。

細井 順 「希望館」ホスピス長、本作出演者

この映画はホスピスケアの原点を見事に描いている。
 映画の中で死を迎えた人たちは、それぞれ最期までしっかりと生き抜いた。
 病棟スタッフがしたことは、その生き抜くプロセスに「寄り添う」ことだった。
 ホスピスケアは寄り添うことが原点であると改めて教えてくれる
 すばらしい映画である。

柏木 哲夫 金城学院 学院長 淀川キリスト教病院 名誉ホスピス長、
 公益財団法人日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団理事長

Story

滋賀県近江八幡市にあるホスピス「希望館」。
 六回目の冬を迎えようとしているこの医療施設には、がんの終末期を迎えた人
 たちが集う。
 しかし、入院患者やその家族たちの表情はとても穏やかで、笑顔も見られる。
 与えられたその日一日を精一杯生きてもらうためのケアが、希望館のスタッフ
 たちによって実現しているのだ。
 ホスピス長である細井順さんは白衣を着ない。それはがんを患った自身の経験
 から、「患者も医者も同じ弱さを持った人間同士」であるという考えに至った
 結果だ。細井さんは目線を合わせて患者の「痛み」や「寂しさ」に寄り添う。
 ある日、外来通院を続けていた一人の患者が入院する。その日から細井さん
 はじめ病棟スタッフたちの、患者とその家族に「寄り添う」ケアが始まる…。

日本でホスピス病棟の日常を映し出した
 初のドキュメンタリー映画

本作は、教育映画やテレビドキュメンタリー番組、CM、
 企業PR映像などの演出を手掛ける奈良県在住の溝淵雅幸
 の劇場用初監督作品。

2008年夏、細井先生が出演するテレビ番組の制作を担当し
 たのをきっかけで、ホスピスを舞台にしたドキュメンタリー
 映画の制作を着想。

2011年12月から40日間、患者やその家族に密着した映像は、
 受け継がれていく「いのち」を描いた作品として、大きな
 注目を集めている。

いのちがいちばん輝く日

—あるホスピス病棟の40日—

2013年7月24日(水) 鯉城ホールにて特別上映会開催!
 本作出演の細井順医師、溝淵雅幸監督のトークショーもあります!

<スケジュール> 13:30 ~ 開場
 14:00 ~ 開会 / 上映
 15:50 ~ トークショー
 17:30 ~ 終了

<会場> **鯉城ホール**
 〒460-0008 名古屋市中区栄1-23-13
 伏見ライフプラザ5階
 TEL : 052-222-7521



※事前の申し込みが必要です(入場料800円)。詳しくは下記主催者、またはWEB (<http://www.inochi-hospice.com/>) でご確認ください。

【主催】名古屋介護サービス事業者連絡研究会 TEL:052-253-6758 【後援】「いのちがいちばん輝く日」上映委員会

溝淵雅幸監督作品

死によって受け継がれる、
「いのち」がある。

いのち
が

いちばん

輝く
日



— あるホスピス病棟の40日 —
<http://www.inochi-hospice.com>

助成：文化芸術振興費補助金 製作：有限会社オフィスアクシス/アールズスタッフ 2012年/日本/カラー/HD/95分
制作協力：公益財団法人近江兄弟社/ヴォーリス記念病院/株式会社シムス 後援：公益財団法人日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団
監督：溝淵雅幸 監修：柏木哲夫/細井順 製作統括：武本誠治 プロデューサー：山田哲夫 ナレーター：みるき
撮影：長谷川智章 撮影助手：木村将人 録音・整音：吉田一郎 編集：小林弘典/斉内聡 資料提供：ヴォーリス記念館/池本三千代/池本伸郎/川岸春喜
協力：細井愛/細井望/細井恵 技術協力：株式会社バイリンク販売/株式会社サイズビジョン/はんぶ株式会社/株式会社グッド・ジョブ/有限会社ガリレオクラブ
制作・著作・配給：「いのちがいちばん輝く日」上映委員会 配給宣伝協力：浦安ドキュメンタリーオフィス

